

令和6年度武蔵野市すくすく泉事業有識者懇談会
議事録

日時：令和7年3月10日（月）

場所：武蔵野市役所 802 会議室

令和6年度武蔵野市すくすく泉事業有識者懇談会

○日 時 令和7年3月10日（月） 午前10時～午前11時26分

○場 所 武蔵野市役所 802 会議室

○出席委員 勝又委員長、箕輪委員、吉田委員、松田委員、鶴川委員、藤野委員

○事務局 子ども家庭支援センター担当課長、子ども育成課長、健康課地域保健調整担当課長、子ども協会事務局事業課長

1 開会

【事務局】

皆さん、こんにちは。開会に先立ちまして、事務的なご説明だけ先にさせていただければと思います。

まず、この委員会の事務局を務めます子ども子育て支援課子ども家庭支援センター担当課長、石川と申します。よろしくお願ひいたします。

初めに、本日の会議ですが、記録用に録音をさせていただいております。あらかじめご了承をお願いいたします。

また、本日オンライン参加の委員が1名いらっしゃいます。本会議の様子は、会議前方のカメラと、音声は中央のスピーカーでお届けしております。

それでは、会議の前に、配付資料についてご確認をさせていただきます。

〈資料確認〉

【事務局】

それでは、すくすく泉事業有識者懇談会を進めさせていただければと思います。

本懇談会につきましては、令和5年4月に武蔵野市すくすく泉事業実施要綱を改正いたしまして、すくすく泉事業採択・評価委員会を、有識者懇談会と事業採択・評価庁内委員会に再編いたしました。再編の経緯といたしましては、地方自治法の規定に基づく附属機関と意見聴取及び助言を求める等の場である懇談会等の取り扱いを整理するためござい

ます。

本会議におきましては、すくすく泉の事業について、円滑な事業運営の助言を求めるとの懇談会と位置づけまして、この懇談会の意見を踏まえた上で、庁内の関係者で構成される事業採択・評価庁内委員会にて市としての事業評価を決定する流れとなっております。本懇談会の委員の皆様におかれましては、各専門的な立場からの闊達な意見交換をお願いできればと考えております。

委員長につきましては、武蔵野市すくすく泉事業実施要綱第7条に基づき、子ども家庭部長を充てることとなっております。

それでは、以降の進行につきましては、勝又委員長をお願いいたします。委員長、よろしくをお願いいたします。

【勝又委員長】

皆様、おはようございます。委員長を務めさせていただきます子ども家庭部長、勝又です。日ごろから武蔵野市の様々な子育て支援施策にご協力いただきまして、ありがとうございます。

それでは、議事を進行させていただきます。お手元にお配りしております次第に基づいて議事を進めてまいります。進行表もお配りしておりますが、最終的には11時半閉会ということで進めていきたいと思っております。

会を始める前に、まず、委員の皆様から名簿順に自己紹介をしていただきたいと思います。申しわけございませんが、お配りしております資料1の委員名簿の上から順に、箕輪先生からよろしくをお願いいたします。

【箕輪委員】

おはようございます。武蔵野大学の箕輪です。どうぞよろしくお願いいたします。

【吉田委員】

東京学芸大学の吉田と申します。遅れてしまい、申しわけございませんでした。よろしくをお願いいたします。

【藤野委員】

武蔵野市の主任児童委員をしております藤野久美子と申します。よろしくお願いいたします。

【鶴川委員】

公認会計士の鶴川と申します。よろしくお願いいたします。

【松田委員】

せたがや子育てネットの松田と申します。よろしくお願いします。

2 議事

- ・令和6年度すくすく泉事業実績（見込）について
- ・令和7年度すくすく泉事業計画（案）について

【勝又委員長】

それでは、議事に入ってまいります。「令和6年度すくすく泉事業実績（見込）について」、「令和7年度すくすく泉事業計画（案）について」でございます。

まずは、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

それでは、審議の進め方についてご説明いたします。次第の進行表をご覧ください。

これから事務局より令和6年度の補助金の執行状況及び令和7年度の収支計画についてご説明いたします。その後、いずみの会が会議に参加いたします。施設長ほか団体の皆様に自己紹介をしていただいた後、本題に入ります。

まず、団体から資料2～4により「令和6年度事業実績の概要」、資料5～6により「令和7年度事業計画の概要」を説明していただきます。また、委員の皆様へいただいた質問につきましては、メールでお送りいたしました資料7「委員事前質問一覧表」のとおり、既に団体より回答をさせていただいておりますので、本日の説明は省略とさせていただきます。

その後、各委員の方々から団体に対して質疑を行っていただきます。質疑は11時10分ごろまでを予定しております。質疑の後、団体は退席いたします。

団体が退席した後、各委員からご意見をいただきます。いただいたご意見を踏まえ、当会議終了後に開催される武蔵野市すくすく泉事業採択・評価庁内委員会で、市としての事業採択・評価を行います。

それでは、令和6年度の補助金等の執行状況についてご説明いたします。資料4「令和6年度すくすく泉事業資金収支決算書（見込）」をご覧ください。

1枚めくっていただいて、3ページ目の「令和6年度活動計算書（見込）の費用細目」をご覧くださいければと思います。

すくすく泉事業は、小規模保育事業、一時預かり事業、ひろば事業と3つございます。

字が細かくて見づらいかと思いますが、まず、小規模保育事業です。全体の収入ですが、経常収入計が4,058万6,680円です。続きまして、支出です。一番下のほうになりますが、経常費用総計をご覧ください。こちらが3,871万5,875円です。収支差額は187万805円を見込んでおります。

続きまして、一時預かり事業をご覧ください。経常収入計ですが、1,739万9,730円です。支出は下に行ってくださいまして、経常費用総計ですが、1,721万1,876円です。

続きまして、ひろば事業につきましては、経常収入計が1,481万8,000円です。経常費用総計は下のほうに行ってくださいまして、1,300万1,210円です。収支差額は181万6,790円を見込んでおります。

ひろば事業については、次年度の運転資金の100万円につきましては、一旦、次年度、繰り越しという形にしておりますので、残りの81万6,790円を市に返還する見込みとなっております。

続きまして、資料6をご覧ください。「令和7年度すくすく泉事業資金収支決算書（予算案）」と表記されている資料でございます。

3枚目の「令和7年度活動計算書（予算案）の費用細目」をご覧ください。と思えます。

まず、小規模保育事業ですが、経常収益計につきましては4,455万6,990円です。それに対応しまして、経常費用総計につきましても同額の4,455万6,990円となっております。

一時預かり事業につきまして、経常収益計が1,628万8,730円となっております。経常費用総計につきましては、下のほうに行ってくださいまして、1,618万3,590円で、10万5,140円残額の予定です。

ひろば事業につきましては、経常収益計が1,486万7,000円となっております。経常費用総計が1,351万1,550円となっており、経常収益の残額といたしまして、135万5,450円を予定しているところでございます。

事務局からの説明は以上でございます。

【勝又委員長】

事務局からの説明が終わりました。

令和6年度の決算及び令和7年度の予算につきましては、団体のほうからも詳細説明がありますので、もしご質問があれば、その中にご質問いただければと思います。

それでは、いずみの会の方に入場していただきますので、ご案内をお願いいたします。

<いずみの会入室>

【勝又委員長】

おはようございます。それでは、これから団体のヒアリングを行いたいと思います。
まず初めに、いずみの会の方、今日ご出席の方の自己紹介を簡単にお願ひできますでしょうか。

【いずみの会（上田）】

すくすく泉施設長の上田ジュンコと申します。よろしくお願ひいたします。

【いずみの会（大槻）】

今年度より保育園の施設長をしています大槻といいます。よろしくお願ひします。

【いずみの会（近藤）】

おはようございます。NPOいずみの会代表の近藤和義でございます。よろしくお願ひいたします。

【いずみの会（種田）】

同じくいずみの会の種田と申します。よろしくお願ひいたします。

【勝又委員長】

それでは、早速ですけれども、提出をいただいております資料2から資料6までの説明をお願ひしたいと思っております。この後、質疑応答の時間がございますので、説明については簡潔にお願ひをいたします。なお、資料7の「委員事前質問一覧表」につきまして、ご記入いただいたものを既にいただいておりますので、こちらについての説明は割愛していただひ結構でございます。

それでは、説明をお願ひいたします。

【いずみの会（上田）】

よろしくお願ひいたします。では、まず、「令和6年度実績報告」からお話ししたいと思います。資料をお読みいただひていると思ひますので、特に新しく試みたこと、また補足のある部分を中心にお話しさせていただきたいと思ひます。

「事業名称」、「事業理念」については変わりません。

「事業内容」についてです。

まず、ひろばです。ひろばについては、大きな変更はなく、子育て支援拠点として日常の安心な居場所として、また敷居の低い相談の機関として、地域の入り口としての役割を果たしてききました。

一時預かりについては、令和5年度後期から体制をとった一般型に加えて、令和6年度4月からは「多様な他者との関わりの機会の創出事業」を始めました。すくすく泉では、「は一とぷらん」と名前をつけて、幼稚園、保育園などに通っていない2歳児までを対象に、毎週決まった曜日の決まった時間に預かりをするという定期利用枠で、最長6カ月の利用ができます。また、申し込みをすれば、その後も継続可能です。月曜日から金曜日に各曜日1～2名の受け入れをしました。

【いずみの会（大槻）】

小規模保育です。資料はほとんど去年度と変わらずに、補足するところもありません。

【いずみの会（上田）】

次の「事業効果・波及効果」についてです。

ひろばです。プログラムを前年から大きく変えたことはなかったのですが、その中でも新しい試みとして加えたのが、土曜日の育児参加を促すプログラム「Tomony」で行った「パパの栄養講座」です。薬剤師で「食と健康の学問所」という教室を開いている講師の方に来ていただきまして、守るべき家族を持ったパパたちに、自分の健康と食について目を向けてもらいたいということと、栄養の基礎を知ること、子どもの食にも関心を持ってもらいたいということをテーマに行いました。ゲーム形式を加えたりして、楽しい会になったと思います。参加者のパートナーに後日聞いたところ、ベジファーストで食べていたとか、健康にいいオイルを早速買ってきたとか、そのように速効性があったというお話を聞きました。

もう一つは、これも食ですが、助産師さんと栄養士さんの企画で、完了食以降、離乳食が終わった後に何を食べさせたらいいかわからないという声、悩みに答える講座で、大人の御飯から取り分けるコツを、実際に保護者の方に、自分が食べたいお弁当を買ってきてもらって、その場で取り分けて子どもに食べさせるというランチ会形式で講座を行いました。「食が細い」、「食べるものに興味がない」と言っていたお子さんが目の前でパクパク食べていたり、いつまでもやわらかいものばかりで次に進むタイミングがわからないとおっしゃっていた親子がいたんですが、いきなりちくわを手づかみで食べ始めたり、それを栄養士さんと助産師さんがいて、これでいいんだということをおっしゃって、すごく安心したという参加者など、全員大満足の講座でした。

また、中町集会所で、私たち出張で「親子ひろば」に行っています。「こらぼのコミセン親子ひろば」というのですが、コロナで予約制になってから、予約制が解除されても、

参加人数がなかなか戻らない。以前は、こらぼのに参加してから、すすく泉を知ってもらって、「常設のひろばがあるんだよ」という形で紹介するパターンが多かったのですが、今は逆にすすく泉に来ている方に「こらぼのがありますよ」というふうにお誘いするみたいなことが多くなっていました。

今年度はしっかり担当者をつけて少し周知することに力を入れていこうということで、チラシをつくったり、ヨガとか、ハンドトリートメントとか、お母さんが集まりそうな企画をして、1回来てもらって、場所を知ってもらったりというようなことをしてきました。その効果か、後半は参加人数が少しずつ増えてきていて、終わった後の参加者同士のランチ会をコロナ前は毎回やっていたんですけれども、それが少し復活してきて、何回か実現することができました。これは来年度も引き続き工夫をしていきたいと思っています。

一時預かりです。一時預かりは、4月よりコロナ前の預かり人数の同時間帯に5人というところに戻しました。全体として一時預かりはヘビーユーザーが増えている印象です。特に先ほどお話しした定期利用枠というのは、本当に予約開始 30 分ぐらいで全部埋まってしまうみたいな勢いで、「家族総出で電話をかけました」とか、「とれなかった」と言っていて嘆く方とか、これはすごく人気があり、ニーズがあるんだなと実感しています。

また、私たちは、一時預かりのスタッフとして、よりよい一時預かりをするためにということで、今回保育室に3名が3日間、実習で入って、「子ども主体の保育」を学びました。もともとスタッフは常勤が2人、ヘルプで保育室に入ったりしていたんですけれども、合わせて5名が保育室を経験して、一時預かりに生かしていこうとしています。機会があれば、今後もほかのスタッフに保育室で保育を学んでもらいたいなと思っています。

【いずみの会（大槻）】

保育です。今年度より10名から11名へ1名増の定員にしました。報告があるように、7月までは11名そろうことがなかなか難しい状況でした。当初はゼロ歳児1名の定員予定でスタートしていましたが、途中、保育見学者の様子や月の入所状況を見ながら、年齢募集を変えたりしていったことで、そろうことができてよかったです。

今年度より、今までもやっていたんですけど、保育への参加、保育士体験という形で、保護者の方が保育士さんになって保育園に参加してもらいました。保育士体験をやって、保護者の方から好意的なアンケートがたくさんありました。半日だったんですけど、実際、保育士さんになってもらって、自分の子ども以外の子と、遊びだけではなく着がえのお手伝いとか、どのように声をかけていくかなどをやってもらいました。保護者の方は、実際

に私たちと同じ仕事をして気づくことがたくさんあったようです。また私たちスタッフ側も、ふだんなら送迎の姿しか見ていなかった保護者の一面が見られて、その後の信頼関係がグッと強くなりました。来年度も予定をしています。

続いて、高齢者訪問のことをお話しさせていただきます。今年度は初めて高齢者施設訪問をさせていただきました。4～5歳が訪問に行くことは、私も耳にしたり、実際やったことはあるんですが、乳幼児の訪問は私も初めてだったので、どうしようかなと思っていたんですけど、ただ小さい子がいるだけでも、高齢者の方が喜んでくださいました。子どもたちは、確かに自分たちのおじいちゃん・おばあちゃんたちよりもご年配の方なので、最初はとても緊張していたんですけど、時間とともに慣れてきて、最後は「バイバイ」とできたりして、いい機会がくれたなと思いました。今月もまた予定をしています。

【いずみの会（上田）】

次に、「達成目標に対する評価・反省」についてです。

3事業のかかわりについては、先ほどお話ししたように、実習研修をお互いに行ったり、保育の保護者対応について、ひろばからの意見を取り入れたり、また、小規模保育の保育士がひろばのプログラムに参加したりと、今年度は今まで以上に部署の隔たりなく行き来し、意見を交わしながら来られたとされていて、それはすごくよかった点だと思います。

子育てひろばについては、利用者同士の支え合いを促してずっと来たんですけども、今年度も後半になるにつれ、みずから動ける利用者さんたちが増えて、温かい雰囲気ができ上がっています。

そんな中での反省点としては、ある特定の親子にサポートが必要だと気づいてスタッフが対応しているときに、その他の親子から見て、その親子だけ特別扱いしているように見えたり、排他的な場所だと感じられたりする可能性があるかもしれないということです。せっかくひろばに来てくれたのに、不満足な気持ちを言えずに帰っていく方もいるかもしれないので、それをテーマにひろばスタッフでミーティングを開いて、配慮すべき点などを、共通認識を持って対応しようということになりました。

一時預かりについては、外国籍の保護者に対する報告は、理解できたか丁寧に確認するようにということをしてきました。

また、配慮が必要なお子さんの特性というか、そのお子さんがどんなときにパニックになってしまうのかとか、どんな遊びだと集中して落ちついていられるのかとか、そういう話をスタッフ間で共有しながら、何か子ども同士とかのトラブルに発展しないようにする

ことなど、いろいろ話し合いながら、こういった方でも利用したいという方ができるだけ利用ができるように、多様な子育てに対応できるように努力をしてきました。

【いずみの会（大槻）】

保育です。今年度よりホームページをリニューアルしました。リニューアルをしたことで、保育の様子がより詳しく紹介でき、保育園見学者が去年度よりも多くなったことはよかったです。

また、常勤スタッフを途中から募集していたのですが、何人かはリニューアルをしたホームページを見て来たという話もありました。

「令和7年度以降の見通し」のところで重複しているので、読んでいただけたらと思います。

常勤スタッフが8月から休職に入り、新しいスタッフを募集しながら、ひろばの有資格スタッフに応援に入ってもらいました。ひろばと保育室の相互理解が深まったこともよかったです。子どもも保育の応援に入っていないときにひろばスタッフに声をかけたりする姿もあり、より安心していろいろな大人たちとのかかわりも多く見られました。

【いずみの会（上田）】

地域とのつながりについてです。毎年行っている地域の催しへの参加を引き続き行ったのと、ボランティアさんも受け入れをしました。今年度は先ほど大槻から説明があったように、初めて高齢者のデイケアセンターに保育の子どもたちが遊びに行きました。それもほかのお祭りなどで知り合った地域の方からの紹介で行きました。地域の行事などは、声をかけてもらったらなるべく参加するようにしています。

最後に、「令和7年度以降の見通し」についてです。

子育てひろばです。事業計画と重なりますので、簡単にお話ししますが、今年度スタッフの入れかわりがあり、来年度はその方たちが中心に活動し、今まで10年積み上げてきたいい部分を土台にしながら、より今のニーズに合った子育て支援をしていけたらと思っています。さらに、小中高生などのかかわりを今よりも増やせたらと思っています。

一時預かりは、今までのひろばの加算事業としての親の傷病やレスパイトなどという親目線の預かりから、より保育寄りの、子どもにとっての経験という目線が加わってきて、その点に関して、私も含め、スタッフの意識改革も必要だと日々感じています。子ども、特にうちは乳幼児が多いんですけども、「乳幼児のための一時預かりって何だ」という点がまだストーンと落ちてないところが私自身もあって、何を求められているんだろうとい

う部分を今後も勉強していきたいと思っています。

【いずみの会（大槻）】

保育です。安定した定員確保をしていくために、ホームページだけではなく、さらにすくすく泉の保育の特徴や内部の様子を外部にもっと知ってもらうような工夫を考えていきたいと思っています。4月から新規採用常勤スタッフが加わり、今年度よりもシフトに余裕を持てるはずですので、スタッフの園内研修やキャリアアップ研修、保育環境などの充実を図っていきたいと思っています。そのほかは資料のとおりです。

【いずみの会（上田）】

会計です。

【いずみの会（種田）】

私から追加説明させていただきます。

令和5年度、それからその次の令和6年度に大きな変化があり、一時預かりが、一般型一時預かりの認定を受けまして、東京都から300万強の新しい補助金を得る事業として生まれ変わったということです。それで令和6年度を迎えるに当たって予算を組んだのですが、その時点では、これまでのひろば補助金と、一般型一時預かり補助金、それに加えて、多様な他者との関わりの機会の創出事業補助金、新しい補助金を加えて当初の1.6倍の資金収入ができたんです。

我々は何が浮いたかといいますと、ここに上田がいますが、大槻が保育の管理責任者です。上田は一時預かりとひろばの管理責任者ですが、一時預かりに上田の人件費を払う負担能力がないんです。そのために、総係り人件費の観点から、保育にも人件費の負担を求めて、何とかかんとかやってきた状況だったのですが、収入面で1.6倍に膨れ上がったことで、上田の大半の人件費を一時預かりで賄うことができるようになった。

加えて、今まで常勤を採用することができませんでした。常勤を1名採用するという新たな試みができて人件費を組んだのが令和6年の予算だったんです。

それでずっと進んできたんですが、市のほうから、ひろば事業と一時預かり事業の予算を分けるようにというご指示を受けました。それが下期になるんですが、大急ぎで実行予算、実績を全部組みかえまして、本来の形へまた戻す結果になってしまったんです。新しく増えて全額持った人件費が、そのままストーンと持てなくなってしまったことが、資料4にありますように、説明のつかない600万円の差になってしまったのです。

ですから、今、予算と実績の見通しでは、ここにありますように630万円、一時預かり

の人件費が下がっております。ただ、これを細かく説明するのは非常に難しいんですけど、ほとんど一時預かりで見ようと思った人件費が見られなくなってしまった分、予算未消化という実態になったことだけを追加説明させていただければと思います。

それと、新年度を迎えまして、忘れてはいけないのが、ようやく人件費に余裕を持つことができましたので、先ほども言いましたように、保育も常勤を1名追加しました。一時預かりも、ひろば事業のほうも、常勤職員を採用しました。そういうことで、組織の安定は過去にないものが生まれるなどと思っています。ここを十分資金的に補完しながら、ひろばというか、園の運営を支えていければいいと思っていますので、その辺をしっかり見守っていきたいと思っていますのでございます。

【いずみの会（上田）】

では、引き続き令和7年度の事業計画に入りたいと思います。

「運営理念」については変わりませんので、お読みいただいたとおりです。

「令和7年度に力を入れて取り組みたいこと」です。

子育てひろば、一時預かり、一緒にお話しします。

令和7年度は「多様な子育てに届く支援を地域と共に」というテーマで、地域とのつながりを大切に、また、新しいつながりを増やすことを念頭に置いて活動しようと考えています。私たちだけではできない支援を、地域を含めて考えてできるようになるといいなと思っています。

具体的に今進めていることの例としては、中学生と子育て世代のかかわりの機会を生み出すということで、中学校のお祭り担当をしている方と今相談をして話し合っているところです。そして、多様な子育てについては、特に一時預かりの利用のしおりの英語版を、まず作成しましたので、これをホームページなどに掲載するようにします。様々な事情を持つ保護者の方が安心して利用できるひろば、一時預かりになるように、スタッフの研修も重ねていきたいと考えています。

【いずみの会（大槻）】

保育です。これはずっとやっているんですが、子どもの午睡中に常勤・非常勤で毎日10分ミーティング、振り返りを行っています。一人ひとりの子どもたちの遊びやかかわり、様子などを話し合い、今どんなことが必要か、自分だったらどんなふうにかかわるかななどの話をしています。常勤・非常勤に関係なく疑問に思ったことや感じたことなど意見を言うことで、一体感のあるチームをつくってきました。4月から子どもたちもかわり、

また新しい常勤スタッフも加わるので、引き続きこの話し合いを大切にしてい保育に生かしていきたいと思います。

また、保護者との信頼関係を結ぶために、おたより帳だけではなく、保護者の方から気軽に話せるように工夫をしていきたいと思っています。今年度はひろばのカフェコーナーでお茶をしながら話したりすることもありました。引き続き令和7年度も保護者の気持ちに寄り添いながら、日々子どもたちの成長や保護者の悩み事など一緒に考えながら子育てを支えていけるようにしていけたらと思っています。

【いずみの会（上田）】

次に、中長期計画についてです。これについては特別大きな変更はなく、開所から10年たちまして、コロナで停滞してしまったことについても今は継続して充実させていっていると思っています。特に昨年お話しさせていただきました運営体制の安定化と次世代へのつなぎという点ですけれども、今でももちろん課題ではありますが、保育も、園長がかわって、新しい体制になって1年安定してきましたし、ひろば、一時預かりも、常勤スタッフが追加されて、また仕事の効率化としてICT化もできるところは進めてきていますので、少しずつではありますが、将来に向けて進めていきたいと思っています。

次に、事業内容についてです。まず、子育てひろばからです。具体的なプログラムについてはたくさんありますので、資料をご覧くださいとして、特に今年度と変わる点についてお話しします。

週に2回行っていた発達支援プログラムの「すくすくプレイ」ですけれども、火曜日と木曜日だったんですが、火曜日のほうを、以前行っていた「すくすくトーク」という形でリニューアル復活させることにしました。子どもの発達についてみんなで話をするんですけれども、保育室からいつも決まった保育士1名を参加させて、保育と同じような遊びや歌とか絵本などと、今までの経験からの子どもの発達のエピソードなどを話してもらったり、あと参加者の悩み相談に現役の保育士が答えていくなど、フリートークなんですけれども、そういう時間をつくる予定です。

そして、この報告を出したときにはまだ決まっていなかったのですが、記載できていないんですが、月に1度みんなで子どもの歌を歌ってレパートリーを増やそうという「ららレッスン」という時間をつくります。利用者からの声で、テレビでやっているような最近の歌は歌えるけれども、昔から定番の子どもの歌を忘れてしまった。いざ歌おうと思ったら、歌詞も忘れてしまっていて、教えてほしいという声が上がっていたのです。毎月ピアノの

先生に来てもらって、ストレッチとか発声をして、1～2曲をみんなで真剣に歌おう。そうやってレパートリーを増やしていこうというちょっと楽しいプログラムが始まります。

もう一つは、土曜日の「Tomony」の枠ですが、星山麻木先生のところで、コーディネーターの資格を取った方に講師に来てもらって、「虹色なこどもたち」のワークショップをやっていたただこうということを予定しています。障害のあるなしで判断するのではなく、人はみんな特性を持っているんだ。それぞれの特性の秀でたところを育てていこうというテーマです。早いうちから子どもの特性の受け入れを保護者もしやすくしていこうという内容になる予定です。

あと、一時預かりですが、引き続き丁寧な一時預かりの継続をします。特に定期利用の「は一とぷらん」は、毎月保護者面談をして記録をつけているんですけども、さらに、できるだけ同じスタッフが担当するようにシフトを組んで、保護者がより相談しやすいようにしていきたいと思っています。

【いずみの会（大槻）】

保育です。新規採用常勤を加えて、さらに安定した保育体制の中で、非常勤はもちろん、ひろば、一時預かりスタッフとも声をかけ合って、すすく泉全体のよいチームワークで子どもたちを見守り、保護者の信頼を得る保育をしていきたいと思っています。

また、大人主導ではない保育をなるべく生かしていくために、室内遊びに加えて、隣接しているすすく泉公園で、じっくりと子どもたちが遊べる時間を確保していきたいと思っています。この公園に遊びに来る近隣の園の大きな子どもたちの遊びを見たり、まねしようとする姿なども大事なことだと思っています。地域で子育てを一緒にしていくことを大切に、今後もさらに充実させていきたいと思っています。

【いずみの会（上田）】

では、「3事業の相互の関わり方や、その他について」です。繰り返しになりますが、今年度は3事業が仕事や実習などで交差し合うことでそれぞれの事業が充実してきたという実感が今までで一番あります。令和7年度もさらに3事業が一体となっているという施設の強みを生かしながらの運営をしていきたいと思っています。それにはやはり仕組みよりも人であり、人と人とが知り合って一緒に何かをなすことで、こんな相談をしていいのかなとか、こんなお願いはきっと迷惑だろうみたいな遠慮もなくなってきて、そもそもすすく泉に集う子どもたちや親たちのことを考えた上での意見ならば、全スタッフが部署を超えて意見を出し合えるというような風通しのよい体制で進めていきたいと思っています。

す。

最後に、「地域参加・参画方法」です。私たちは今も泉幼稚園の跡地利用のころの地域の方たちからの見守りや協力、また時には厳しい目に支えられながら運営してきました。利用者にもその思いを伝えたくて、「はじめてのひろば」というプログラムで、初めてこの施設に来ていただく利用者さんへ、単なる行政サービスではなくて、地域の方の支えでこの施設ができているんだというお話はさせてもらっています。

この地域で育ってよかったという子どもたちとか、この地域で子育てしてよかったと思える方たちが増えるために、地域の温かいまなざしを何とか増やしていきたいと思っています。そのための活動を大事にしてきていますし、数年前につくった「地域子育て応援マーク」については、先日もそのチャームが欲しいということで地域の方が立ち寄ってくださったり、細々とは続いてはいるんですが、少し停滞ぎみなので、来年度の事業でさらに広める活動を加えていく予定をしています。

【いずみの会（種田）】

先ほど人件費の関係で説明いたしましたが、いずれにしても、多くの利用者にご利用いただき、非常にありがたく思っております。ただ、利用料金に全く手をつけておりません。今、人件費は上がる一方です。したがって、負担ばかり増えるんですけども、これは補助金事業ですので、何とか補助金で賄って、利用者さんに負担を求めるということではなく、補助金で保育としてお返ししたいという趣旨で考えております。

あとは、残った補助金を人件費の中でどれだけうまく運営して、働く仲間が気持ちよく子どもと接する環境をどれだけつくっていけるか、それが我々経営する側の大きな役目だなと思っておりますので、力を尽くしていきたいと思っております。

【いずみの会（上田）】

以上になります。ありがとうございました。

【勝又委員長】

ありがとうございました。それでは、今ご説明をいただいた内容、あと提出いただいている資料の内容につきまして、こちらから質問をしていきたいと思っております。

委員の方からそれぞれ質問をいただきたいのですが、質問のある委員の方は挙手をしていただいて、松田委員につきましては、ご発言で「質問」と言っていただければ指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

【松田委員】

本当に充実してよく考えて皆さんで取り組んでいらっしゃる様子がわかって、とてもすばらしいなと思いました。

連携のところで、利用者支援事業とか、子ども家庭支援センターとか、保健師さんとの連携のところがあまりうまくいっていないように感じました。ここはもしかしたら、すすく泉さんよりは、市側の対応ということになるのかもしれないのですが、今、子ども家庭支援センターに移行するということと、地域子育て相談機関という枠組みがありますので、そういったものに指定してもらって、その情報提供のところをもう少しやられたほうがいいんじゃないかと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

【勝又委員長】

では、まず、実態のところでお答えいただいて、もし必要でしたら市のほうでお願いします。

【いずみの会（上田）】

まず、保健師さんは、今、定期的に月1回ひろばのほうに来ていただいている、私たちの相談にも乗っていただいたりという機会があります。

その他、利用者支援事業については、私たちは何かあれば直接子ども家庭支援センターに連絡をしたり、いろんなところとつないだりということになると思うんですが、今年度そんなに子ども家庭支援センターからの話も来ていませんし、こちらから特別大きな問題で相談をすることもあまりなかったかなと思います。そういうのが実態です。利用者支援事業は、実際何をされていて、どのように利用したらいいかというのは、私たちは正直あまりよくわかっていないところです。

【勝又委員長】

では、実態について、石川担当課長のほうからお願いします。

【事務局】

子ども家庭支援センター、石川です。よろしくお願いいたします。

まず、子ども家庭支援センターのほうの支援として月1回程度、保健師が各拠点を回らせていただいて、日ごろのお悩みであったり、利用者のご相談をさせていただいています。その際に情報提供とか、今年度はちょっとあれですが、毎年度、保健師の講座とか、施設と連携した取り組みをさせていただいているという状況です。

こども家庭センターと地域子育て相談機関についてですが、令和6年度からこども家庭センターのほうは市として整備しておりまして、子ども家庭支援センターと健康課母子保

健係という形で、こども家庭センターという枠組みは、機能としてはつくっているところ
です。

また、地域子育て相談機関につきましては、現在、利用者支援事業（基本型）実施施設
の3施設が、今、市の3駅圏の中心の子育て支援の位置づけという形になっております
ので、そちらのほうを地域子育て相談機関として指定をした上で、市と連携して実施をす
るという形で整理をしているところでございます。

また、利用者支援事業につきましては各施設を回るということで、そこまでできていな
いところがあるかとは思いますが、例えば拠点会議という形で、9施設全体での情報交換
の場というのを毎月設けさせていただいております。その中で、市も入った上で、今年度、
例えば子育てフェスティバルでの取り組みのご協力とか、全体の防災関係のテーマとか、
そこを一緒にお話し合いをさせていただいているところでございます。

市の取り組みとしては以上となっております。

【松田委員】

ご説明ありがとうございました。せっかくⅢ型ができますので、巡回して、そのとき、
たまに聞き取るというよりは、やはり身近な場所が、虐待のケースだけではなくて、ちょ
っと心配というところからつながってフォローするという視点で、もう少し連携したほう
がいいんじゃないかなという感じがありました。

これだけなめるようにと言ったら変ですけども、本当に地域の人たちと組んでつな
がりをつくっている拠点ですので、そこで感じていることがもっと反映されたいのでは
ないかなと感じています。引き続きⅢ型の検討もしていただけると、すくすく泉さんも安
心なのではないかなと思います。

【吉田委員】

ご説明ありがとうございました。今年度も新しい試みをたくさんやられて、パパを対象
とした取り組みですとか、高齢者施設を訪問されたり、すごくいろいろな取り組みを工夫
されているなと感じました。来年度も「らららレッスン」のようなものもということ伺
って、すごく充実した内容だなと感じました。

例えば一時預かりの定期利用枠のニーズがすごく高く、争奪戦になっているというお
話もあったと思うのですが、先ほどのご説明の中で、補助金を受けて人件費に少し
余裕が出てきたので、組織としても安定してきたとか、あと3事業が交差して連携して、
充実してきた実感があるということもおっしゃっていたと思います。来年度以降に向けて

いろいろ計画もされているのですけれども、そういう中で、すすく泉さんとして、もう少し周りからのこういった支援とか、こういったことがもう少しかなうと、より充実した取り組みができるんじゃないかなということがあったら教えていただきたいというのが1つです。

あとは、今年度の子育てひろば事業の取り組みの中で、多分ちょっと行き違いがあったと思うのですけれども、反省点があったというお話もありました。その後、中でもいろいろと検討されたということですが、今後そういったことで利用者さんとの齟齬が起こらないような形で、どのように取り組んでいこうかというようなところをもう少し教えていただけたらと思います。

【いずみの会（上田）】

もう少しこんなことがあればというのは、日々何かいろいろと新しいことがどんどん生まれてきて、アイデアがどんどん湧いてくる。ただ、そこを実行するのにやはり手が足りなかったり、どこにつながったらいいかわからなかったりみたいなことはあります。こんなことをやりたいんだけど、他団体とどういうふうにつながっていいか。そういうところを相談できるような場があるといいなと思ったりします。

アイデアが湧いてくるのは、もちろん今いる利用者さんからのニーズがベースになっているので、そのところは勝手にいろいろな新しいことを考えているわけではないです。こういうところが大事だと思ってやっている中で、他団体とか、他施設とのつながりを、アイデアとか、紹介とか、そういうようなことを相談するところはどこだろうみたいな、そういうときに相談に乗ってくれるとうれしいなと思ったりしています。

もう一つは、利用者さんとの関係では、特に私たちは芯としてしっかりとこういうふうにしていきたいというのはつくっているんですが、例えば親子でひろばに遊びに来る子は親が見るべきだろうとは思っていません。基本はそうなんです、親が疲れているときもある。発達にちょっと支援が必要なお子さんで、お母さんにとっても疲れている様子が見えたりしたら、今日はスタッフがついて遊ぼうというふうにします。そのときに、ほかの方への配慮も必要ということ。ここはこういう考えで、こういうふうに行っているんだというのをなるべく利用者さんに伝えようとはしています。

ただ、上から目線で、「うち是这样やっているんですよ」と伝えるのはやりたくないです。あとは、ルールみたいなものもたくさん貼るのは嫌です。なので、アイデアとしては、4コマ漫画みたいな漫画にして、預け合いの話とか、私たちはこういう考えで行っている

んだみたいなところをちょこちょこ施設に貼ったりしています。

あとは、初めて来ていただいた方に、うちの考え方みたいなものも話したりしています。それでもたまに「ほかの施設ではこんなことはない」みたいな声もあったりするんですが、丁寧にお話ししていくしかないかなと思っています。

【吉田委員】

ニーズをベースにしていろいろなアイデアが湧いてくるというのもすごくすばらしいなと思いました。そういう点に対して、アイデアはあるけど、どう実現させたらいいかというところの難しさがあるということですが、市のほうでそういったことが相談できるような場所とかは何かおありなのでしょうか。

【事務局】

ひろばのことであれば、子育て支援アドバイザーも巡回しておりますし、何かご相談事があれば、していただければと思います。保健師も同様に月1で回っていますので、保健師のほうで様々なご相談、日ごろの相談を聞いているかとは思いますが。日常のちょっとしたことも利用者さんからも聞いていますし、施設運営のことは、保健師に直接は難しいかもしれませんが、今度、誰と一緒に話を聞きますねとか、そういったつながりはできると思います。そのあたり、もしご相談があれば、聞いていただければと思います。あと、子ども家庭支援センターの地域子育て支援担当のほうにもご相談していただければ、そのあたりの運営のご相談について、やれるところはまたちょっとあるのかなと思いますので、ご相談していただければと思います。

【いずみの会（上田）】

ありがとうございます。

【吉田委員】

仕事の効率化に向けてICT化ということをおっしゃっていたと思います。今、学校現場とかでも、ICT化と言う割には、なかなか物理的な環境が整わなくて実現していないという現状もあったりします。物理的な問題だったり、ハードとかソフトのいろいろな問題があると思うのですが、内容がすごく充実してきていると思いますし、そのアイデアも実現させていっていただけたらなと思いました。

【藤野委員】

質問というあれではないかもしれないのですが、今お話があった子育てで「ちょっと預かって、お母さんが楽ができるかな」というようなポイントは、もしかしたら、一

時預かりとすごく絡まっていて、一時預かりではないけれども、お母さんもちょっとしゃべる時間があるって、お子さんも預けたいというところなのかな。お母さんの御用で預けるのではなくてというところであれば、児童館もお互いに親同士の預かり合いをしているかと思うのです。

それをもうプログラムみたいに1つの企画にしてしまって、「この日はお子さんを見るスタッフがいるので、お母さん同士でしゃべれます」みたいな「何とかタイム」ではないですけど、つくってしまえば、そのときだけ、「クレームが来るかな」というのは、もしかしたらない。人数とかもあるかもしれないんですけど、それに参加ができますよと。何かしら優遇されるような日にする。何にもない日にそこだけそれをしていて、「何で？」と思う方もいるのかなとちょっと思ったのです。

【いずみの会（上田）】

何でもない日にいつもしています。企画としては、土曜日の保育室があいているときに、「30分見ていてあげるからゴロゴロしていいよ」という「ゴロゴロサタデー」というのを今やっているのですが、そういうところに手を挙げてくださる方と、挙げられない、参加できない方もいて、日常的にちょっと大変そうだなと思ったら、スタッフは動きますという感じのひろばをやっています。

もちろん企画で、預け合いの体験をしようとか、そういうことも大事だと思うので、それは入れていってはいらるんですが、日常的に必要なサポートができればいいなと思っているので、ふだんからスタッフだけじゃないんです。きょうだい同士で遊びに来ていて、上の子は外で遊びたいけど、下の子は赤ちゃんだから中で過ごしたいみたいなときは、スタッフが入って、スタッフが見る場合もあるし、親子同士で、「お互いにどっちかを担当してみたら？」という声かけをするなど、そのように日常的に場面を読んで入り込むことを大事にしている。そういうひろばですという感じです。

【藤野委員】

すごくよくわかります。子どもたちを見ていると、改まったことじゃなくて、どうしてもそういうことが起きるし、その日は機嫌が悪かったり、その日は体調が悪かったりするので、そこを囲ってというのは難しいかなと思います。なので、誤解も生まれやすい。逆に（初めて）来ている方に、「あっ、いつもこんな感じなのかしら」と思われることもあるかもしれませんね。

【いずみの会（上田）】

ひろばスタッフは2名いますので、例えば1人がある親子さんにサポートに入ったら、もう一人がほかのところに行く。そこで話をして、今の状況の説明をしなきゃいけないんですよ。それができていなかったというところで、そのお母さんは声も出せずに悶々としていた。それが後のクレームにつながったというのが多分今回の話なので、今の状況では、子どもを見ている状況の説明が足りなかったなと思いました。

【藤野委員】

でも、クレームとして上がってきて、そこが発見できたのはすばらしいかなと思うので、そういう施設なんだというのを、先に広くPRできるといいのかなと思いました。

あと、さっきおっしゃっていた赤ちゃんを地域と触れ合う場をつくる。そこが私も伺っていて心に残ったんですが、それもこの間、児童館で赤ちゃんのいるお母さんが、中高生に手を挙げてもらってというのをやっていたけれども、やった後はすごく効果があった。お子さんも「赤ちゃんてこんなに小さいんだ」とか、「赤ちゃんてこんななんだ」みたいなのがあって、すごくよかったというお話は聞いています。

さっきお祭りとか、フェスティバルとか、そういうところを使おうかなとおっしゃっていたのですが、それがどういうふうになるのか、もしある程度動いていらっしゃるんだしたら、教えていただきたいと思います。

【いずみの会（上田）】

まず、今考えているのは、具体的に言うと、中学校のおまつりにブースを出す話が進んでいます。たまたま来年度は縮小傾向だということで、どこまでのことができるのかというのを、4月以降に話しましょうということにはなっています。

ボランティアで参加してくれる、親子で行ってもいいよという方を募って、子どもたちに保育士さんの体験もそうですけれども、妊婦さんの体験とか、そういうようなことができたらいいなという話は何となくしていますが、まだ具体的にどういうものになるかはわからないです。

【藤野委員】

そんな感じかなと思ったんですけど、手を挙げてくれる親子さんも、そんなに多くなかったようです。やはり心配だったり、感染とか、いろいろなこともあったりで、そんなにはいらっしゃらなかったと言っていたので、何かそういうものがもっと広がるといい。私たちも地域でそういうのをPRして、子どもたちと触れ合う場所が増えていくといいかなと思います。よろしくお願いします。

【いずみの会（上田）】

ありがとうございます。

【鶴川委員】

鶴川です。いつもありがとうございます。私のほうから経営状況についてお聞きできればと思います。

資料で申しますと、資料4の3ページの「令和6年度活動計算書」を拝見していますと、法人全体として、先ほどおっしゃったように、いろいろ人件費があつたりして、一応黒字にさせているということです。ただ、これは補助金の関係で、どうしても事業別に見ていくと、ひろば事業が100万ぐらいの黒字で、一時預かりが18万ぐらいの赤字です。間接費の配付の問題はあるんですけども、全体的に見ると、そういう状況で、いろいろ苦勞された結果だと思うのです。ただ、今度これは100万円を市に返還しなくてははいけない。

【いずみの会（種田）】

これはルールです。

【鶴川委員】

そういうルールなので、そこが法人全体の経営と、補助金はどうしても事業別に出るので、そこで精算しなくてははいけない。そこがちょっと悩ましいところがある。先ほど一時預かりの定期利用のほうがすごくニーズがあるので、もう少しそちらのほうに例えば人を投入して、扱う人数を増やすとか、そういう形でうまく使う。ちょっと難しいかもしれないけど、そういう人件費の活用とか、そういうのは可能なんでしょうか。

【いずみの会（種田）】

基本的には、昔ひろば事業でくくりでしたので、そのさじかげんが非常にきいた時代があまりにも長かったんですね。そこがスポンとなくなって、これでやるといったときに、一応決まったんですけど、そうは言え、我々は一つ屋根の下にいますので、人が入れかわっているんですね。助けてもらったお金を一切負担しないということではできないので、例えば一時預かりの非常勤の人が保育に入れば、保育が当然負担するというふうに相互でやり、極力できるようにはしているんです。そこは厳密にできない部分が、ちょっと曖昧になった部分はあるんですけど。

極端な話、上田の給料は、一応施設長でもありますので、そのお金を今まで分担して、ほとんど保育が持っていたのです。一時預かりが全く持てないので。ただ、今度ようやく一時預かりのほうが大きな補助金をいただきましたので、一時預かりとして管理責任者の

上田を賄えるという仕組みになったものですから、その分、保育のほうは常勤を1名増員できますし、全体でのバランスをとっていくことはできました。

余談になりますが、利用者に負担を求めるのではなくて、我々の中の人事を交流させ、それをどう追求していくかです。それと、我々経営陣は頭が痛いのは、うちでは制度的に賞与がないのです。賞与をどうやって返すか。いわゆるボーナスがないのです。お金の見通しがついたら、一時金というふうにして皆さんに返そうという計画でいますので、それをどれだけ返すことによって、皆さんのモチベーションにつなげられるかというところになりますかね。

【鵜川委員】

どうしても補助金の制度もありますけれども、できれば今おっしゃったような人件費で還元するとか、あるいは今おっしゃったように3つの部門があるので、その配置を工夫していただくとかして、赤字になったら困りますけど、収支トントンぐらいになればと思います。

【いずみの会（種田）】

上田のほうで人の交流、職員の動きが非常に活発化しているのを管理してくれていますので、それを受ける我々としても、「あっ、これだけ行っているんだ」と、それがよく見えてくるのです。ですから、動いているだけに、さじかげんがしやすいというところは実はあります。

【鵜川委員】

決して無駄なお金ではないので、有効に使っていただければと思います。

【いずみの会（種田）】

できれば職員に返したいというのが本音なものですから、そういう気持ちでおります。

【箕輪委員】

ご説明ありがとうございました。年々いろいろなことに取り組みながら、毎年すごいなと思って説明を聞かせていただいているんですけども、だからこそ、いろいろ状況が変わってくる中で、多分、先生たちも学んだり、子どもたちのために新たに購入したりというところで、お金のところを見ると、先生方は外部研修など、ちゃんと研修を受けられているかなということが少し心配です。

小規模保育さんのほうが額が少し少なくて、ひろば事業のほうに多くついているという状況なのかなと思っているのですけれども、交流等でそれぞれ必要な研修を受けることが

できているかということです。それと、もしそれが難しいという状況であれば、どういった状況で難しくなっているのか。逆に市として支援してもらえるところがあれば、教えていたただきたいというのが1点。

もう1点が、保育材料費もそんなにすごく多くはないのかなと思っています。たくさんやっていたらからこそ、もっとかかってしまうのではないかなと思って、そのあたりが心配になったので、どうでしょうかということをお伺いできればと思います。

【いずみの会（上田）】

まず、研修に関しては、保育のほうは意外と無料の研修がたくさんあって、そこには積極的に参加していると思います。あとは、キャリアアップとかもそうですが、今オンラインで、ビデオで見られるような研修があって、ああいうので短い時間でギュッとまとまっているものは、かなり活用しています。忙しいので、休みの日に研修に行くのもなかなかつらかったりする。でも、研修は精いっぱい受けている。うちのスタッフは意外と研修が大好きなので、参加したいと思って行っていると思います。

あとは、年間幾らという形で、研修費の補助制度もあります。外部で有料の研修を受けた場合は、幾らか負担してあげますよというふうにしています。多分そこで数字が載っているのはそちらのほうかなと思います。

あと、材料費をもっと使ってもいいのではないですかという話です。

【いずみの会（大槻）】

例えばどういう……。

【箕輪委員】

毎年様々なことを増やされているからこそ、材料費がかかったり、あと、以前伺わせていただいたときに、絵本がかなり充実していた記憶があって、その絵本とかも、お子さんが使うと壊れてきてしまったりして、入れかえたりすることを考えると、材料費というか、保育教材費をもっと使われないのかなと思ったのです。

【いずみの会（大槻）】

私も施設長が初めてで、その辺があれだったんですけど、来年また常勤スタッフが増える。今年は休職した常勤のスタッフがいて、非常勤のスタッフとか、ひろばのスタッフで結構ぎりぎりで、毎日の保育のことで精いっぱいというのが正直なところでした。でも、これからは安定して、私たちももっと勉強して、今、子どもに何が必要なのかとか、上田のほうと相談をしながら、もう少し充実していけたらなと思います。

【いずみの会（上田）】

来年は食育をやるんですよね。

【いずみの会（大槻）】

そうです。来年は、10年たって、もう少し給食チームと一緒にあって、メニューとか、あと私たちが乳幼児の食に関してもう少し勉強していきたいなと思います。

【いずみの会（上田）】

食育を遊びに取り入れていきたいと思っています。

【勝又委員長】

質問の時間もそろそろ参りましたが、まだご質問、これだけは聞いておきたいというようなことがあれば。——よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、質疑の時間をこれで終了いたします。どうもありがとうございました。

いずみの会の皆様はここでご退席をお願いいたします。

<いずみの会退室>

【勝又委員長】

それでは、いずみの会のほうからの説明、委員の方との質疑応答を踏まえまして、補助事業が適切に実施されているか否か、来年度の事業計画が妥当かどうかという観点から、ご意見をお願いしたいと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。もしよろしければ、一言ずつコメントをいただけると助かります。

【松田委員】

とても丁寧に運営をされていて、全国のひろばの中でも数少ない優良なと言ったら失礼ですが、すごく優良なひろばの1つだと私も思います。いろいろなひろばをたくさん拝見していますが、地域の方たちがすごくバックアップされているところが見られて、武蔵野の誇れるひろばの1つではないかと思います。

ほかの委員の方がご質問してくださっていましたが、やはり賃金がちょっと低いなというのと相まって、その辺が利用できるような市の配慮もいただけたらというふうに感じました。

【箕輪委員】

今年も本当に丁寧にいろいろ事業を考えられて、来年もされていこうというところで、今、松田委員からもお話がありましたけれども、私も賞与がないということもお聞きして、先生方の給与を見たときに、賞与を出して、これだけ頑張ってくださいっているというところ

ろをどうにかできないものかと思いました。地域の保護者の方を支えていらっしゃるとても大切な事業だと思いますので、何らかの形で、市のほうでまた支えていただけたらと思います。

運営に関しては、様々な金銭的なところもそうですし、もちろん内容についても本当に努力されているということです。私のほうからは、すすく泉さんの運営についてはございません。

【吉田委員】

私も同じような内容ですが、組織として安定してきたところがすごく心強いなと思いました。資料のほうにも、「“実家”のような場所」という記載があって、地域に根づいてそういう場所になっているなというのもすごく感じたところです。

ちょっとご質問させていただいたところで、いろんなアイデアが湧いてくるけれども、どこに頼ったらいいかというところが少し課題であるとおっしゃっていたので、ぜひその辺を市のほうでバックアップしていただけると、内容もより充実していけるのではないかと感じました。

それから、箕輪委員もおっしゃっていましたが、私も賞与がないということはちょっと驚いたところで、何らかの手当という形でその辺がつけられるといいんじゃないかなということも感じました。

【藤野委員】

補助金のこととか、あと各事業ごとに振り分けられてしまうのというようなご苦労をお話しされていましたが、保育の現場はあまり定規で引いたようにできる仕事ではなくて、さっきもおっしゃっていたように、応援体制の中でやっていらっしゃるというところをすごく感じますので、そこのお悩みとか、そういうのを受けとめていただいて、よりよい運営ができるようになったらいいなと思います。

あと、利用者さんも、お母さんに限らず、お父さん、おじいちゃん・おばあちゃんとか、外国籍の方とか、本当に広がっていて、かかわり方も難しくなったり、ご苦労されているなと思うんですけれども、そこを乗り越えて、様々な豊かな資源を利用しながらやってくださっているなと感じます。アドバイザーの方が回っているというのもありますけれども、またより密着して見ていただけるといいんじゃないかなと感じました。

【鶴川委員】

事業の内容としましては、地域の人々がみずから助け合ってこういった事業をされてい

るのは大変立派なことで、大変だとは思いますが、よくご苦労されていると思います。

今ほかの委員の皆さんのご意見もありましたけど、補助金の枠組みの中で人件費を賄おうとすると、最低賃金ぐらいのものしか出せないということです。通常の保育園ですと、市としてもいろいろな加算みたいなものをつけていると思うんですが、こういった補助事業で、人件費の加算的なものが可能なかどうかとか、あるいは事業の区分です。今、区分があるので、この事業で黒字だと返還みたいになってしまいますけど、その辺の融通性が可能なかどうか、ご検討いただければと思います。

【勝又委員長】

今3つの形態の事業区分でやっていて、小規模保育のところは、市が認定した枠組みでやっているので、例えばキャリアアップとか、様々な補助金は、その小規模保育の中では加算ができて、その中の仕組みでやっているのです。

ひろば事業の場合は、やはりひろば事業の枠組みになってしまうので、先ほど言った余剰金が出た場合は、100万まではいいけれども、それを上回る場合は市へ返還する。

一時保育もまた枠組みがあって、実は今回「多様な他者との関わり」という一時保育の枠のうちの1枠を使っているんですね。東京都の仕組みの多様な他者との関わり事業を使って、それに新たな施設整備の補助と、新たな補助のスキームで、数百万円の人件費が加算されたという仕組みになっているんです。収入が1.6倍になったというのは、多様な他者との関わり事業をやることによって、その1枠で増えた。

先ほど鶴川委員からも、その枠を増やしたらいいのではないかという話があるのですが、実は一時保育の数人の枠の1枠をそこで使っているということなので、全部をそこで使ってしまうと、今度、一時保育の枠がなくなってしまうという事情がある。団体さんも、収入を得るということも含めて、東京都が始めた多様な他者との関わり事業に手を挙げて、今年度からやっている。定期的な保育になるので、その需要が高くて、枠が埋まっている。そのような仕組みなので、それぞれの補助金の仕組みとかスキームによっていろいろあり、先生も言われたように、なかなか難しい。団体もその3つの枠でどうやって人のやりくりをしていくか。同じ方が違う事業にかかわったとき、その人の人件費をどうするかというところがあったりして、なかなかご苦労されています。

またそこは各事業、所管も分かれているところもありますけれども、少し団体とも相談をさせていただく。どういう形でやると、賞与までできる仕組みになるのかというのは、

団体と所管で少し話をしながら、やりくりするべきなのかと思います。ご意見をいただいたところは、また市のほうで持ち帰らせていただきたいと思います。ありがとうございます。

それでは、各委員から様々ご意見をいただきましたが、この有識者懇談会の意見としては、おおむね良好でやられているというところを踏まえまして、令和6年度において事業計画に基づいた事業を実施しており、令和7年度について妥当な事業計画が立てられている。そのようなところで懇談会としての意見をまとめていきたいと思いますが、委員の皆様いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【勝又委員長】

ありがとうございます。そうしましたら、令和6年度において事業計画に基づいた事業を実施しており、令和7年度について妥当な事業計画が立てられているという形でまとめさせていただきます。まとめた意見につきましては、採択・評価庁内委員会に上げまして、最終的にはこちらの委員会で実施事業の決定を行っていただきたいと思います。

続きまして、次回の懇談会の開催ですが、今回は令和8年の3月ごろの時点で、また今年度と同じように、現年度の実績と次年度の計画についてご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

3 その他

【勝又委員長】

それでは、以上をもちまして、審議が終わりましたので、次第の3「その他」に移ります。

事務局からお願いしたいと思います。

【事務局】

事務局から最後に連絡事項がございます。

まず、本日の議事要録につきましては、完成次第、メールでお送りさせていただきます。内容をご確認いただきまして、ご自身のご発言など修正すべき点があれば、事務局までメールにてご連絡をお願いいたします。修正を反映した後に、市のホームページにて公表させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、本会議の謝礼につきましては、本日この後ですけれども、事務局のほうで回収さ

させていただきますが、「承諾書」に記載の口座に後日お振り込みをさせていただきます。

また、最後に、この会議に関しまして、何かご不明点等ございましたら、子ども家庭部子ども子育て支援課まで問い合わせをお願いいたします。

事務局からは以上となります。

4 閉会

【勝又委員長】

それでは、以上をもちまして、令和6年度すくすく泉事業有識者懇談会を終了したいと思います。お忙しい中ありがとうございました。

以上